

研究部だより

令和2年12月2日(水) No. 8

研究部(牧野, 早坂)

今年度の研究を振り返って 公開研究会へ

— 11月30日 研究全体会Ⅲ —

11月30日(月)に研究全体会Ⅲを行いました。会に先立って、主幹教諭の今野ゆき先生から「本校で進めるカリキュラム・マネジメントの方向性」について講話をいただき、以下の点を共有しました。

- ・ 学校教育目標の具現化のため、教育活動の質の向上を目指してカリキュラム・マネジメントに取り組む
- ・ カリキュラム・マネジメントを進める上で子供・学校・地域の実態把握が欠かせない
- ・ 右の資料のように、三つの側面を意識してカリキュラム・マネジメントを進める

2 私たちが取り組んできたこと。

【カリキュラム・マネジメントの三つの側面】

- ①教育の内容を教科等の横断的な視点で組み立てていくこと
- ②評価し改善を図っていくこと
- ③教育課程に必要な人的、または物的な体制を確保するとともに改善を図っていくこと

本校で取り組む共同研究がまさにカリキュラム・マネジメントに当たるということを、全体で確認することができました。

そして、全体協議の中心は「今年度の共同研究を振り返って」です。主な内容を一部取り上げると、次の通りです。

- ・ 五つの資質・能力それぞれで子供の姿を見ることで、子供を多面的に見取ることができるようになってきた。
- ・ チーム研究によって、それぞれの教科等の授業を見る目が養われてきた。
- ・ (本校で中心に据えて育成を目指す)五つの資質・能力の具体を探った全校授業では「資質・能力」を意識しすぎた。各教科等で考える「本質に迫る授業」と五つの資質・能力のつながりが十分でなかった。
- ・ 五つの資質・能力の具体とともに各教科等の“本質”を探ることも続けて大事にしていきたい。
- ・ 現在の仮説検証型の研究は、教科等ならではの学びを大切にしていって進めていく上で有効だと思われる。
- ・ 教科部研究もチーム研究も全てつながっている。別物ではなく、進めていきたい。

チームの授業提案を基にした全校授業研究会での子供の姿、そして授業者の姿。また、その後の私たちの変化。それを受けた今後の方向性。コロナ禍ではありましたが、今年度の共同研究を振り返った先生たちの言葉からは、研究を連続させて取り組む良さを感じました。公開研究会の全体会での研究発表では、研究全体会Ⅲの協議の内容も盛り込みたいと思います。

3日には、教科部研究やチーム研究の具体が見える中間報告集【紀要別冊】の読み合いがあります。

「何が見えたのか」「本当にそう言えるのか」。そして研究全体会Ⅲでも出された「等身大でありのままの文章なのか」。それぞれの文章を分析的・批判的に読み、鋭さをもって検討しましょう。

そして、1月の公開研究会です。11月30日から受付を開始して、現時点で60名を超える申込みがあります。

校長先生からは「**“遊び心”を忘れず、研究の枠組みの中に“スピリット=命(=闘魂)”を吹き込んでほしい**」、副校長先生からは「**共同研究のゴールが学校教育目標というのがすごくよい。全員が同じ目標に向かっている**」というお話をいただきました。

全員で熱く授業づくりに取り組み、公開研究会では子供の姿、そして私たちの姿で発信しましょう。

文責：研究主任(三浦)